

日本民俗学会第 69 回年会日程 (佛教大学紫野キャンパス)

目次

日程1

キャンパスマップ／発表会場図2

アクセスマップ／アクセス3

年会参加者の皆さまへ4

託児サービスについて5

個人発表の皆さまへ6

グループ発表の皆さまへ／座長の皆さまへ7

公開シンポジウム8

発表タイムテーブル10

日 程

2017 年 10 月 14 日 (土)

9:30～10:00 理事会 (6号館 101教室)

10:00～12:00 評議員会 (6号館 101教室)

12:00～ 受付開始 (佛教大学 5号館 1階)

13:00～16:30 公開シンポジウム

「民俗学とは何かー京都で考える民俗学のかたちー」 (5号館 101教室)

16:40～17:50 研究奨励賞受賞式・会員総会

18:00～20:30 懇親会

2017 年 10 月 15 日 (日)

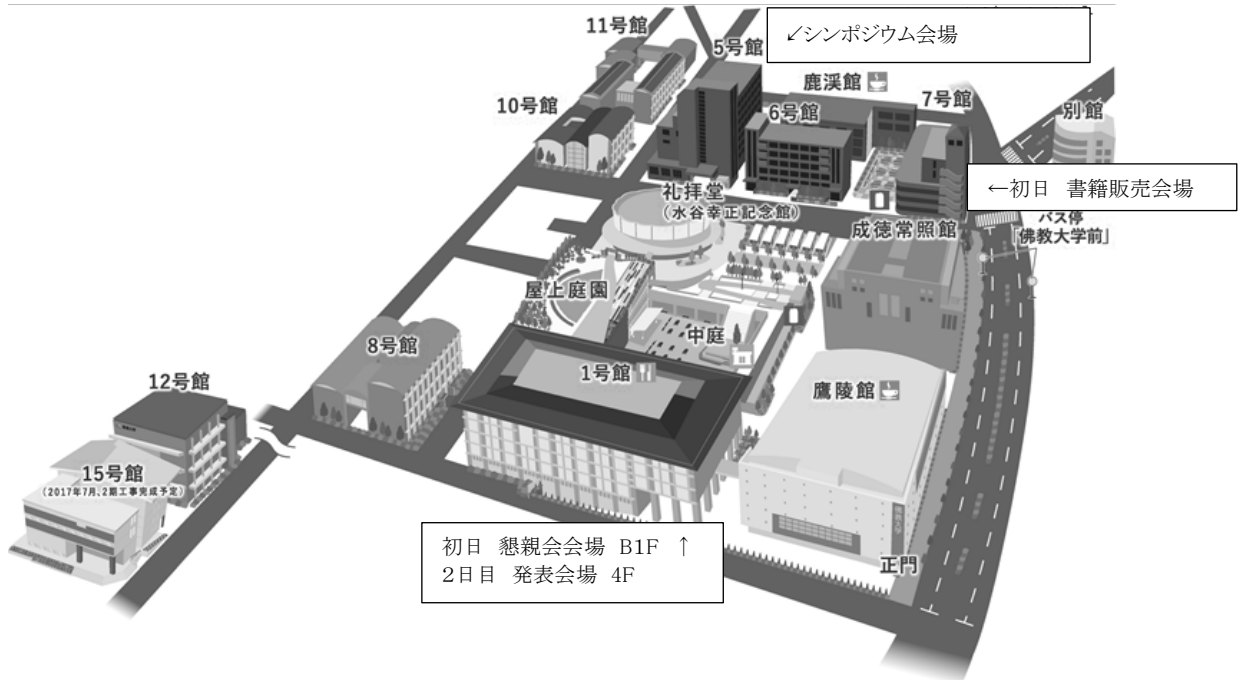
9:00～ 受付開始 (1号館 エントランス)

9:30～11:55 研究発表 (午前) (1号館 4階 各教室)

12:00～13:00 昼食

13:00～15:55 研究発表 (午後) (1号館 4階 各教室)

佛教大学 紫野キャンパス



発表会場図 1号館 4階



ACCESS MAP



- ・JR京都駅から
 - 市バス205系統循環 (B3のりば)、206系統循環 (A3のりば)、101系統金閣寺行 (B2のりば)
 - ⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約3分
- ・京都市営地下鉄北大路駅から
 - 市バス1系統西賀茂車庫行、北1系統玄琢行 (青のりばE)、北8系統松ヶ崎駅行 (青のりばF)
 - ⇒佛教大学前にて下車
- ・JR、地下鉄二条駅から
 - 市バス6系統玄琢行、46系統上賀茂神社行
 - ⇒佛教大学前にて下車
 - 市バス206系統循環
 - ⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約3分
- ・阪急大宮駅
 - 市バス6系統玄琢行、46系統上賀茂神社行
 - ⇒佛教大学前にて下車
 - 市バス206系統循環
 - ⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約3分

・京阪出町柳駅

市バス1系統西賀茂車庫行

⇒佛教大学前にて下車

市バス102系統北大路バスターミナル行

⇒千本北大路にて下車し、北に徒歩約3分

佛教大学<<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/access/murasakino/>>のホームページもご参照ください。

年会参加者の皆さまへ

□年会受付

▽受付では、お名前をおっしゃっていただいたうえで、袋をお受け取りください。

中には研究発表要旨集等が入っています。

▽当日の参加申込みをされる方は、「当日申込み受付」にてお申し込みください。

当日の参加費用は、年会参加費 5,000 円、懇親会費 7,000 円(学生6,000円)です。

※事前申込みの状況から、当日申込み受付は混み合うことが予想されております。ご了承ください。

□名札

▽会場では、常時、名札をお付けください。

▽懇親会に参加される方は名札に記載されています。懇親会の際は、必ず名札をつけてご参加いただきますようお願い申し上げます。

▽名札は、お帰りの際にスタッフまたは回収箱へお返してください。

□懇親会

▽懇親会は、14日(土)18:00より、1号館地下1階カフェテリアにて行います。

▽懇親会場に入場する際には、名札を会場入り口の係にご提示ください。

▽当日、参加を申込まれる方は「当日申し込み受付」にてお申し込みください。参加費は 7,000 円です。

▽懇親会中には貴重品は各自で保管をお願いいたします。盗難・紛失・毀損などについて、実行委員会としては一切責任を負いかねますので、ご了承ください。

□昼食

▽学生食堂（1号館カフェテリア）が開いております。学内のコンビニエンスストアも開いておりますので、ご利用ください。

□喫煙場所

▽佛教大学の敷地内はすべて禁煙となっております。5号館（初日のシンポジウム会場）と鹿溪館との間の北側のスペースに喫煙所があります。喫煙の際は喫煙所をお願いします。

□書籍・研究雑誌コーナー

▽14日・15日の両日、以下のとおり書籍・研究雑誌コーナーを設けます。

14日（土） 12：30～17：30、7号館 1階 101、102 教室

15日（日） 9：30～15：30、1号館 4階ラウンジ、413、414教室

□その他

▽発表会場内では、携帯電話の電源を必ずお切りください。

▽会場内で何かご不明な点がございましたら、スタッフまでおたずねください。

託児サービスについて

今大会では、学会会場での託児サービスはありません。以下は、土日にも利用することができる京都市内の託児サービス施設の情報です。ご希望の方は、それぞれ個人契約でお申込みください。託児料金につきましては、それぞれ事業所にお尋ねください。

①託児・託老派遣サービス green

所在地：〒604-8414 京都市中京区西ノ京小倉町22-13（JR二条駅から徒歩5分。学会会場までは市営バス6番・46番・206番にて20分～30分ほどです）

TEL & FAX:075-801-3799、E-MAIL:kitekitegreen@gaia.eonet.ne.jp

URL <http://www.kitekitegreen.com>

* 平日12時～18時までにご連絡ください。

②ばあばサービスピノキオ（京都市シルバー人材センター 堀川今出川事務所）

所在地：京都府京都市上京区北舟橋町866（市営地下鉄今出川から徒歩10分。学会会場まではタクシーで10分ほどです。）

TEL:075-432-3575、なお、受け入れ定員は本事業所全体で1日10名で先着順です。

③キッズスクエア 京都ホテルオークラ店

所在地：〒604-8558 京都府京都市中京区河原町御池 京都ホテルオークラ6F（市営地下鉄東西線「京都市役所前」駅 徒歩1分、学会会場までは、市営地下鉄烏丸御池駅まで出ていただき、北大路駅からバスとなります。学会会場までは地下鉄とバスで30分ほど、タクシーでは20分ほどです。）

TEL:075-212-2080、URL:http://www.alpha-co.com/ks_kyotohotelokura_shosai.jsp

④保育園ホテルキッズ

所在地：京都市下京区玉津島町291 マキタビル4階（地下鉄烏丸線 五条駅 2番出口より徒歩6分。学会会場までは、市営バス46番・101番で40分ほどです。）

TEL:075-351-0052、E-MAIL:info@hotel-kids.jp、URL:<http://hotel-kids.jp/>

個人発表の皆さまへ

□使用機材

- ▽各会場には、PC (Windows10 と Office2013)、持ち込みパソコン用ケーブル (Dsub15Pin)、プロジェクターが設置されています。
- ▽データを USB メモリでお持ちください。Office2013 以外のバージョンで作成されたデータは、まれに体裁が崩れる場合がありますので、事前確認をお勧めいたします。

□発表受付 (15日)

- ▽発表者は、発表の 30 分前までに発表会場の前で受付をお済ませください。
ただし、午前最初の発表者は 9 時 45 分まで、午後最初の発表者は 12 時 45 分までにお申し出ください。
- ▽発表者は、前の発表が始まるまでに発表会場の「次発表者席」に着席のうえ待機してください。ただし、午前最初の発表者は 9 時 50 分より、午後最初の発表者は 12 時 50 分より待機してください。
- ▽午前中の発表者は9:30から、午後の発表者は12:30から動作確認のための時間としております。動作確認を希望する発表者は、この時間から発表開始時間までの時間帯をご利用ください。

□配布資料

- ▽配布資料がある場合は、あらかじめ 50 部以上をご用意のうえ、発表受付時に会場担当者にお渡しください。
- ▽配布資料の事前送付および当日の複写はお受けすることはできません。
- ▽資料の複写は、学校近辺のコンビニエンスストアなどをお願いいたします。

□発表時間

- ▽発表 20 分・質疑応答 5 分とし、以下のようにベルで時間をお知らせします。終了時間は厳守くださいますようお願いいたします。
 - 17 分経過 ベル1回 (発表終了3分前)
 - 20 分経過 ベル2回 (発表終了)
 - 25 分経過 ベル3回 (質疑応答終了)
- ▽発表者や座長の交代、聴講者の移動のため、各発表の間に 5 分の時間をとります。
この時間は発表延長のための時間ではありませんので、ご注意ください。
- ▽発表者の責任により発表の開始が遅れた場合には、定刻の範囲内で発表・質疑応答を行ってください。

グループ発表の皆さまへ

□発表受付

▽グループ発表の代表者は、メンバーが揃ったことをご確認のうえ、発表予定時刻の 15 分前までに会場担当者にお申し出ください。

▽グループ発表の時間枠は、120分になります。進行、質問の受付、時間配分などの運営は、決められた時間内で各団体で自由に決めてください。終了時間は厳守でお願いいたします。

□配布資料・使用機材

▽取り扱いは、個人発表と同様です。

座長の皆さまへ

▽ご担当の発表が始まる 30 分前までに各会場担当者にお申し出のうえ、発表会場の「次座長席」にご着席ください。ただし、午前最初の座長の方は 9 時 50 分より、午後最初の座長の方は 12 時 50 分より待機してください。

▽「発表時間」に記した時間通りにタイムキーパーがベルを鳴らします。このベルを参考にして、発表が時間通りに行われるようご配慮をお願いします。

▽進行中に、問題が生じた場合は、各会場担当者へお申し付けください。

公開シンポジウム

民俗学とは何か —京都で考える民俗学のかたち—

民俗学とは、17世紀イタリアのヴィーコ(Giambattista Vico, 1668—1744)に発し、18・19世紀の対啓蒙主義、対覇権主義の社会的文脈の中で、ドイツのヘルダー(Johann Gottfried von Herder, 1744—1803)、グリム兄弟(Jacob Ludwig Karl Grimm, 1785—1863, Wilhelm Karl Grimm, 1786—1859)によって強力に推進された文献学と、メーザー(Justus Möser, 1720—1794)による郷土社会研究が合流することで形成され、その後、世界各地に拡散し、それぞれの地において独自に発展したディシプリンで、覇権、普遍、中心、主流とされる社会的位相とは異なる次元で展開する人間の生を、前者と後者の関係性を含めて内在的に理解することにより、前者の基準によって形成された知識体系を相対化し、超克する知見を生み出す学問である(島村恭則『グローバル化時代における民俗学の可能性』『アジア遊学』215、2017年)。

この学問が、日本に導入され、主として柳田國男のリードのもとに体系化と組織化が開始されてからすでに100年以上の歳月が経過している。この間、さまざまなスタイルの民俗学研究が生み出され、今日に至っているが、その過程で、民俗学とは何か、何が民俗学なのかについての共通理解が曖昧となり、そのため、たとえば個別には優れた研究が多く生み出されていても、研究者間でそれぞれの研究の位置付けができず、学問全体としての力が発揮されないという事態も発生するようになっている。

本シンポジウムでは、こうした状況を乗り越えるべく、あらためて民俗学の多様な姿と確保すべき一貫した視点について検証し、現代における民俗学という学問の全体像—民俗学のかたち—を描き出す。

いまから19年前、今回のシンポジウム会場と同じ京都・佛教大学にて開催の日本民俗学会第50回年会シンポジウムで話題とされた「落日の中の日本民俗学」なるものは、本シンポジウムをもって、完全に過去のものとなり、民俗学は理論的かつ実践的に強力に再構築され、同時に学際的にも開かれたディシプリンとして再生することになる。(島村 恭則)

司会・趣旨説明:橋本 章

基調報告:島村恭則「民俗学とは何か」(13:10~13:40)

報告1:野口憲一「農業とは何か?—最先端の科学技術(大規模植物プラント・生物学・ハイテク機械)を用いた株式会社による『野菜生産販売事業』は『農業』か?」
(13:40~14:05)

報告2:真鍋昌賢「演者とは誰か—動態的な浪曲史記述の可能性—」
(14:05~14:30)

報告3:村上紀夫「政治史と『民俗』のあいだ—六孫王権現社『再興』過程の史料論—」
(14:30~14:55)

コメント1:村上忠喜「実践現場からの応答」(15:10~15:25)

コメント2:周星「中国民俗学からの応答」(15:25~15:40)

討論:(15:40~16:30)

【登壇者プロフィール】

島村 恭則 関西学院大学社会学部。主要著書:『〈生きる方法〉の民俗誌—朝鮮系住民集住地域の民俗学的研究—』(関西学院大学出版会、2010年)、『引揚者の戦後』(編著、新曜社、2013年)ほか。

野口 憲一 日本大学文理学部。主要論文:『科学的農業』における人間性—コンピューター管理によるイチゴの高設養液栽培の事例から—『現代民俗学研究』(9、2017年)、「〈産業としての農業〉を営むという実践を理解する—徳島県におけるレンコン生産農業の事例から—」『日本民俗学』(285、2016年)、「『当事者』とは誰か—『当事者』の絶対化と相対化の相克をめぐって—」『現代民俗学研究』(4、2012年)ほか。

真鍋 昌賢 北九州市立大学文学部。主要著書:『浪花節 流動する語り芸—演者と聴衆の近代—』(せりか書房、2017年)、『大衆文化とメディア』(共著、叢書 現代のメディアとジャーナリズム4、ミネルヴァ書房、2010年)ほか。

村上 紀夫 奈良大学文学部。主要著書:『京都地蔵盆の歴史』(法蔵館、2017)、『まちかどの芸能史』(解放出版社、2013年)、『近世勸進の研究—京都の民間宗教者—』(法蔵館、2011年)ほか。

村上 忠喜 京都市歴史資料館。主要著書:『日本の民俗10 都市の生活』(共著、吉川弘文館、2009年)、『一枚の写真—近代京都庶民生活写真引き—』(京都市文化市民局文化部文化財保護課、1999年)ほか。

周 星 愛知大学国際コミュニケーション学部。主要著書:『本土常識的意味—人類視野中的民俗研究—』(北京大学出版社、2016年)、『郷土生活的邏輯—人類学視野中的民俗研究—』(北京大学出版社、2011年)ほか。

橋本章 京都文化博物館。主要著書:『戦国武将英雄譚の誕生』(岩田書院、2016年)、『近江の年中行事と民俗』(サンライズ出版、2012年)ほか。

発表タイムテーブル

| 会場(教室) | A(415) | B(416) | C(417) | D(418) | E(412) |
|-------------|---|--------|---------------------------------|-----------------|--------|
| | 発表者 | 発表者 | 発表者 | 発表者 | 発表者 |
| 10:00～10:25 | 中嶋奈津子 | 小野寺佑紀 | 高安淳一 | アルカラス・ ジョルジオ | 宮平盛晃 |
| 10:30～10:55 | 西川桂史 | 小笠原輝 | 荒 一能 | 樋田竜男 | 古谷野洋子 |
| 11:00～11:25 | 清水亨桐 | 大村哲夫 | 山田なつこ | 鈴木正崇 | 宇仁義和 |
| 11:30～11:55 | 松岡 薫 | 渡部鮎美 | 真柄侑 | 小池淳一 | 林 承緯 |
| 12:00～13:00 | 昼食 | | | | |
| 13:00～13:25 | 福持昌之・ 福原敏男・ 蘇理剛志・ 坂本要・ 内山大介 | 横田尚美 | 齋藤貴之・ 大矢京右・ 遊佐順和・ 西谷榮治 | 陸 薇薇 | 宮岡真央子 |
| 13:30～13:55 | | 手塚恵子 | | 春日井秀 | 王 婷儀 |
| 14:00～14:25 | | 山本芳美 | | 蛸島直 | 李 生智 |
| 14:30～14:55 | | 鈴木昂太 | | 佐藤喜久一郎 | 黄 綠萍 |
| 15:00～15:25 | 矢島妙子 | 荻野裕子 | 青江智洋 | 橘 弘文 | 甘 靖超 |
| 15:30～15:55 | 高橋 巧 | 松山由布子 | 遠藤健悟 | 田野 登 | |

| F(401,402,403) | G(404,405) | H(406,407) | I(408,409) | J(410,411) |
|-------------------------------|----------------|------------|------------|------------|
| 発表者 | 発表者 | 発表者 | 発表者 | 発表者 |
| 石川俊介 | 金城 ハウプトマン朱美 | 林春伽 | 三隅貴史 | 西連寺匠 |
| 岡本真生 | 伊藤敏 | 大上直美 | 秋野淳一 | 遠藤賢治 |
| 長谷川洋一 | 柏木享介 | 伊賀みどり | 大里正樹 | 天田顕徳 |
| 山田巖子 | 由谷裕哉 | 板橋春夫 | 岡田浩樹 | 黒田一充 |
| | | | | |
| 菅豊・ 市川秀之・ 塚原伸治・ 加藤幸治 | 越智郁乃 | 本林靖久 | 濱田時実 | 金田久璋 |
| | 阿利よし乃 | 田中大介 | 青木舞花 | 酒向伸行 |
| | 福 寛美 | 山田慎也 | 川野和昭 | 弓削淳一 |
| | 平井芽阿里 | 浅野久枝 | 森本安紀 | 田中久美子 |
| | 武井基晃 | 村尾美江 | 市東真一 | 角南聡一郎 |
| | 小熊 誠 | 立柳聡明 | 谷部真吾 | 石本敏也 |

A 会場

- 10:00-10:25 中嶋 奈津子(岩手県)
盛岡市本宮大宮神社の神楽について
—「殿様神楽」の変遷—
- 10:30-10:55 西川桂史(明治大学大学院生)
門付芸春駒と村落に受容された春駒の差異
—予祝的性質が脱落した新潟県上越市三和区岡田の春駒—
- 11:00-11:25 清水亨桐(グループホームみんなの家川崎新百合ヶ丘)
東京都南多摩地域における粉屋踊りの伝承の現況
—町田市根岸を中心として—
- 11:30-11:55 松岡 薫(筑波大学大学院)
俄を演じるのは誰か
—熊本県阿蘇郡高森町の風鎮祭を事例に—

昼休憩

—グループ発表—

- 13:00-15:00 祭礼・行事の傘・鉾・傘ブク(代表 坂本要)
福持昌之(京都市文化財保護課)
鉾を祭る、鉾をさす—京都の傘鉾・剣鉾・幸鉾—
福原敏男(東京都)
祭礼風流の万度・万灯・額—近世都市祭礼の事例—
蘇理剛志(和歌山県)
祭礼における傘鉾の信仰と秩序—紀州の傘鉾祭りを事例に—
坂本 要(筑波学院大学)
傘・傘ブクと吊り下げ物の変遷
内山大介(福島県立博物館)
奉納物としてのカサボコ—観音・地藏信仰と吊るし物の民俗—
- 15:00-15:25 矢島妙子(明治大学 法と社会科学研究所)
祭りとローカリティ
—「YOSAKOIソーラン祭り」にみる地域表象の現在
- 15:30-15:55 高橋 巧(新潟大学大学院)
民俗芸能の交流と熟練

B 会場

- 10:00-10:25 小野寺佑紀(神奈川県立大学大学院)
三陸沿岸における海難者供養
—宮城県気仙沼地方の事例から—
- 10:30-10:55 小笠原輝(山梨県富士山科学研究所)
富士北麓地域における雪崩災害の履歴と住民の対応
- 11:00-11:25 大村哲夫(東北大学大学院文学研究科)
慰霊儀礼としての卒業証書
—東日本大震災における子どもの死と学校—
- 11:30-11:55 渡部鮎美(日本学術振興会・神奈川大学)
過疎高齢化の中の地域コミュニティの維持
—新潟県十日町市松代地域を事例に—

昼休憩

- 13:00-13:25 横田尚美(滋賀県立大学)
実感としての婦人標準服
—新潟県魚沼市六日町の事例から—
- 13:30-13:55 手塚恵子(京都府)
地域アート
—京都の事例から考える—
- 14:00-14:25 山本芳美(都留文科大学)
日本みやげとしてのイレズミ
19世紀からの動態
- 14:30-14:55 鈴木昂太(総合研究大学院大学後期博士課程)
人はなぜ神々を祀るのか？
—生活・生業面からの考察—
- 15:00-15:25 荻野裕子(奈良教育大学非常勤講師)
伊勢志摩における富士講の多様性
- 15:30-15:55 松山由布子(名古屋大学大学院)
生活の中の呪符
—奥三河花太夫所蔵文献の分析を通じて—

C 会場

- 10:00-10:25 高安淳一(大麻博物館)
大麻という農作物
—民俗学における麻と大麻—
- 10:30-10:55 荒 一能(茨城県)
現代における伝統野菜の展開
—香川県坂出市の金時人参栽培を事例に—
- 11:00-11:25 山田なつこ(茨木市立文化財資料館文化財調査専門員)
ウドの栽培方法とその展開
—大阪府茨木市の事例を中心に—
- 11:30-11:55 真柄 侑(東北学院大学大学院)
暮らしにみる蔬菜栽培のあり方とその多様性
—岩手県紫波郡紫波町片寄を事例に—

昼休憩

—グループ発表—

- 13:00-15:00 北海道の昆布が支える日本の文化(代表 斎藤貴之)
斎藤貴之(北海道武蔵女子短期大学)
富山の昆布文化と「越中衆」
大矢京右(函館市教育委員会)
北海道南部・青森における昆布文化
遊佐順和(札幌国際大学短期大学部)
北海道の昆布がもたらす食文化の多様性
西谷榮治(前利尻町立博物館学芸員)
利尻昆布の産地利尻・礼文島と西日本の昆布文化について—正月飾りの昆布—
- 15:00-15:25 青江智洋(京都府立丹後郷土資料館)
黒谷和紙と生きる人びとのあゆみとゆくえ
—生活のための紙漉きという視点から—
- 15:30-15:55 遠藤健悟(東北学院大学大学院)
営農と農政からみる地域社会の現在
—宮城県大崎市三本木新沼地区の場合—

D 会場

- 10:00-10:25 アルカラス・ジョルジオ(滋賀県立大学大学院生)
近世随筆における「狐」伝承の再検討
- 10:30-10:55 樋田竜男(たかやまそふと)
盟神探湯と顕斎の同一性
- 11:00-11:25 鈴木正崇(慶應義塾大学)
開基伝承から開基イベントへ
—成田山門前町の歴史の語られ方—
- 11:30-11:55 小池淳一(東京)
熊野信仰の沈着過程
—青森県下北半島の里修験の活動—

昼休憩

- 13:00-13:25 陸 薇薇(中国・東南大学外国語学院)
石牟礼道子と民俗学の世界
—『苦海浄土』にみられる普遍性—
- 13:30-13:55 春日井秀(國學院大學大学院生)
八幡不知藪の伝承
—平将門の諸伝説を通して—
- 14:00-14:25 蛸島 直(愛知学院大学文学部)
長田蟹の伝承と同定をめぐって
- 14:30-14:55 佐藤喜久一郎(育英短期大学)
不在の民俗
—存在しないものをいかに伝承するか—
- 15:00-15:25 橘 弘文(大阪観光大学)
外部とのつながりとしての伝説と儀礼
—「若州矢代浦福寿寺略縁起」を中心にして
- 15:30-15:55 田野 登(大阪民俗学研究会)
台風により流失した神社の祭祀
—室戸台風の前と後の大阪湾沿岸地域の一事例

E 会場

- 10:00-10:25 宮平盛晃(沖縄国際大学非常勤講師)
肉と豆の互換性と変化に関する考察
—沖縄の神々に供される供物と共食を事例に—
- 10:30-10:55 古谷野洋子(神奈川大学日本常民文化研究所)
葬儀に肉を使用する習俗の現在
—沖縄県宮古・八重山地方の事例から—
- 11:00-11:25 宇仁義和(東京農業大学オホーツクキャンパス)
写真を用いた民俗学の試み
—1912年に朝鮮の辺地で外国人が撮影した作品から—
- 11:30-11:55 林 承緯(国立台北芸術大学)
台湾における和風の神輿会の創出と継承
-

昼休憩

- 13:00-13:25 宮岡真央子(福岡大学)
戦後台湾の〈生活改進黨〉
—先住民の経験をめぐる初歩的検討—
- 13:30-13:55 王 婷儀(台湾)
音のフォークロアと台湾の爆竹研究
- 14:00-14:25 李 生智(國學院大學大学院)
中国青海省の河湟地方の葬送習俗について
- 14:30-14:55 黄 緑萍(中国東南大学講師)
インターネット時代の葬儀
—「中国清明網」を事例に—
- 15:00-15:25 甘 靖超(総合地球環境学研究所)
婚姻儀礼における食物贈与からみる親族関係
—中国江南の農村地区を事例に—

F会場

- 10:00-10:25 石川俊介(長野県)
結局、出場者になる
—ある行事と調査者の12年—
- 10:30-10:55 岡本真生(関西学院大学大学院)
ヴァナキュラー宗教の民俗誌
—稲荷信仰の事例から—
- 11:00-11:25 長谷川洋一(名古屋市博物館)
民俗展示に関する情報活用の実践
—名古屋市博物館での試みから—
- 11:30-11:55 山田巖子(弘前大学)
渋沢敬三影響下の地方民間博物館
—小川原湖民俗博物館の学史的意義—

昼休憩

—グループ発表—

- 13:00-15:00 パブリック・ヒストリー—歴史実践の民俗学—(代表 菅 豊)
菅 豊(東京大学東洋文化研究所)
パブリック・ヒストリーと歴史実践—反復される多様な歴史活用とその現代的展開—
市川秀之(滋賀県立大学)
滋賀県下の字誌にみる歴史実践
塚原伸治(茨城大学)
歴史を奏でる人々—佐原囃子をめぐる歴史実践—
加藤幸治(東北学院大学)
牡鹿半島における「復興キュレーション」と歴史実践

G 会場

10:00-10:25 金城ハウプトマン朱美(京都府立大学共同研究員)
ズルト島の今と昔
—故郷(Heimat)とは—

10:30-10:55 伊藤 敏(東京都)
心理的民俗学の可能性

11:00-11:25 柏木享介(重監房資料館)
日本民俗学で扱われる歴史の性格
—普遍性・遡及・変遷—

11:30-11:55 由谷裕哉(小松短期大学)
柳田国男「神道私見」における神社を巡る言説

昼休憩

13:00-13:25 越智郁乃(立教大学)
民俗資料としてのアート
—沖縄市コザ十字路絵巻と住民の協働を例に—

13:30-13:55 阿利よし乃(沖縄県)
ユイマールの記憶と現在
—沖縄県八重山諸島波照間島の事例—

14:00-14:25 福 寛美(法政大学沖縄文化研究所)
『おもろそうし』で奄美が「大みや」と呼ばれる意味
—神女祭祀と富—

14:30-14:55 平井芽阿里(中部大学)
沖縄の村落祭祀研究を考える
—岐路に立たされるコミュニティー—

15:00-15:25 武井基晃(筑波大学)
墓の立ち退き移転の抵抗と受容
—土族系門中が首里地区の墓を手放すことの意味—

15:30-15:55 小熊 誠(神奈川大学)
沖縄の門中再考
—門中研究はこれからだ—

H 会場

- 10:00-10:25 林 春伽(ジェンダー史学会会員)
月経に対する身体的・心理的距離
—現代のケガレ意識—
- 10:30-10:55 大上直美(奈良県)
産の神
—二上山周辺の事例報告—
- 11:00-11:25 伊賀みどり(帝京平成大学非常勤講師)
出産の民俗学
—現代の助産院の事例より—
- 11:30- 11:55 板橋春夫(日本工業大学)
産屋の民俗と穢れ観
—京都府福知山市三和町大原の産屋から考える—

昼休憩

- 13:00-13:25 本林靖久(大谷大学)
「墓と樹木」の系譜
—墓上植樹と樹木葬の関連をめぐって—
- 13:30-13:55 田中大介(東京大学)
儀礼実践における継承と創発
—現代葬儀と葬儀業の多元的動向に関する事例から—
- 14:00-14:25 山田慎也(国立歴史民俗博物館)
納骨堂の成立とその機能
- 14:30-14:55 浅野久枝(京都精華大学特別研究員)
在ペルー日系人社会の無縁供養と先祖供養
- 15:00-15:25 村尾美江(成城大学非常勤講師)
山形県天童市に伝えられた「小笠原流」の婚姻儀礼
～弓馬術礼法小笠原流との比較から～
- 15:30-15:55 立柳聡明(福島県立医科大学)
八丈島の地域社会
—社会構造と本質をめぐって—

I会場

- 10:00-10:25 三隅貴史(関西学院大学大学院)
神輿会にとって神輿とは何か
—台東区A神輿会の事例から—
- 10:30-10:55 秋野淳一(國學院大學研究開発推進機構客員研究員)
個人・企業と現代の神田祭
—都市祝祭の賑わいを考える—
- 11:00-11:25 大里正樹(福島県立博物館)
行事の継承におけるコスト
—福島県郡山市「笹川のあばれ地蔵保存会」の事例—
- 11:30-11:55 岡田浩樹(神戸大学)
飛騨高山祭りのイマとサキ
—ザイ、マチ、タビの境界の流動化—

昼休憩

- 13:00-13:25 濱田時実(佛教大学)
ダンジリ起源譚
- 13:30-13:55 青木舞花(國學院大學大学院文学研究科)
お船祭りの研究
- 14:00-14:25 川野和昭(鹿児島県)
大隅のウッガン祭
—門からの変遷—
- 14:30-14:55 森本安紀(滋賀県立大学)
祭りにおける植物の役割
—桂を用いる事例—
- 15:00-15:25 市東真一(神奈川大学大学院)
祭礼における旦那像の変容の研究
—熊谷うちわ祭大総代を事例に—
- 15:30-15:55 谷部真吾(山口大学)
批判されるけんか祭り
—高度経済成長期の伏木曳山祭(高岡市)を事例として—

J 会場

- 10:00-10:25 西連寺匠(帝塚山大学大学院)
奈良県の勸請縄とコト行事
- 10:30-10:55 遠藤賢治(國學院大學大学院生)
関東地方の藁蛇をめぐって
- 11:00-11:25 天田顕徳(東京工芸大学非常勤講師)
現代熊野における曼荼羅絵解き
—コストとモチベーションを手掛かりに—
- 11:30-11:55 黒田一充(関西大学)
石燈籠の銘文にみる地域の交流
—住吉大社の境内調査から—

昼休憩

- 13:00-13:25 金田久璋(福井民俗の会)
アエノコトとアイノコトをめぐる言説批判
—柳田学説と資料のアイロニー—
- 13:30-13:55 酒向伸行(御影史学研究会)
憑祈祷と物付
—『春日権現記絵』の世界を中心に—
- 14:00-14:25 弓削淳一(福岡県)
安曇磯良伝承の歴史民俗学的研究
～「早魚神事」を視点として～
- 14:30-14:55 田中久美子(福岡工業大学)
九州北部における盆綱の分布と地域的展開
- 15:00-15:25 角南聡一郎(公益財団法人元興寺文化財研究所)
投げ石の伝承
—領域を決め、護る民俗—
- 15:30-16:55 石本敏也(茨城県)
百万遍講の継承
—新潟県東蒲原郡阿賀町津川の「百万遍永代帳」を事例として—

日本民俗学会第69回年会 実行委員会

年会会長 徳丸亜木

実行委員長 八木 透

事務局長 大野 啓

実行委員 村上忠喜・市川秀之・島村恭則・橋本 章・河原典史・渡部圭一・芳井敬郎・
内田忠賢・今中崇文・村田典生・平原園子・宮澤早紀・東城義則・柿本雅美・
樽井由紀・鈴木文子・星 優也・山中崇裕・菊池健策・菅 豊(順不同)

年会事務局 佛教大学歴史学部紫野キャンパス 八木透研究室 気付
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
Tel 075-491-2141 (代表)
E-mail minzokugaku69@gmail.com
※連絡はなるべく E-mail でお願ひします